
唯と最愛のH T T

田中テレフタラート・J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

唯と最愛のHIT

【コード】

N0846BA

【作者名】

田中テレフタライト・J

【あらすじ】

平沢唯と絹旗最愛+ がひたすらトークする、トーク小説です。

(毎週日曜更新予定)

第一回「レッツ、HIT!」(前書き)

新小説です。

第一回「レッツ、HTT!」

唯「どうもみなさん、平沢唯です。あけましておめでとございます!」

絹旗「新年超あけましておめでとございます。絹旗最愛です」

唯「はい、というわけで……一体私達は何をするのかな?」

絹旗「どうやら、作者の超突然新企画みたいですよ。ひたすら私と平沢さんがいろいろとトークなどするみたいです。他の作者さんに影響つけてなんかやってみたって感じみたいです」

唯「ほえー、1月1日は家でゴロゴロするって予定だったから、突然呼ばれてビックリしてたんだ!。何はともあれよろしくね、最愛ちゃん」

絹旗「あ、はい、どうもよろしく願います」

唯「ところで最愛ちゃん、タイトルのHTTって『放課後ティータム』でいいのかな?」

絹旗「いや、『二人のトークタイム』って意味らしいですよ」

唯「なっ、なんと!そうきましたか……」

絹旗「もろ、そのまんまですね。超工夫してもんが足りません」

唯「そーかなー?私がいいと思うんだけど……」

絹旗「感覚の違いが表れましたね。それでは第一回ということですし、H T Tの仕組みについて超詳しく説明していきましょっか」

唯「うん、私のためにも是非!!」

絹旗「（本当に突然呼ばれたんですね）」

~~~~~

唯「いきます、H T T!」

絹旗「……はい?」

唯「いやあ、せっかくですし場面展開の時には掛け声でもいれてみよーかなーと思ひまして」

絹旗「なるほど、案自体は超素晴らしいですがもっとセンスのある掛け声が欲しいです」

唯「ガーン、遠回しにセンスないって言われた!」

絹旗「（あんま遠回しでもないんですけど）掛け声は後回しにして説明を始めますか」

唯「だねー」

絹旗「まずその一、何を話すかなんですが……基本的には作者によ

ってあらかじめ用意されていた話題について語ったりするみたいですね。時々、超話したいことを勝手に話したりもするみたいです」

唯「いわゆるガールズトークもするんだね」

絹旗「また、作者の報告の代弁や作者の作品の反省会も私達ができるみたいですよ」

唯「なるほどなるほど……」

絹旗「後、これは作者の夢らしいんですが、他の作者さんたちから話題をふってもらってそれについて話したり、他の作品を紹介したりもしてみたいらしいですよ」

唯「夢のまた夢だね」

絹旗「超バツサリだー！……と、また思いつき次第話すことは追加されるらしいです。わかりましたか、平沢さん？」

唯「はい」

絹旗「では続いている説明は……場所です。H T Tする場所は毎回毎回超変わるみたいです」

唯「なるほど！今回は私達軽音部の部室だけど、次回からは別の場所に変わるんだね！」

絹旗「はい。それで、場所によって特別ゲストが来たり来なかったりするらしいんです」

唯「そーなの！？じゃあ、ゲストさんも交えてトークするんだねー」

絹旗「超御明答です」

唯「……」

絹旗「……」

二人「つて、あれ？」

絹旗「……気付きましたか平沢さん」

唯「気付いちゃったよ最愛ちゃん……ズバリ、ゲスト交えちゃった  
ら『二人でトークタイム』じゃなくなっちゃっうー!!」

絹旗「ええ、私もたった今超気付きましたよ。作者のミスですね」

唯「どうするんだろ……つてあれ、メールだ？何々……『HTTの  
Hは二人+ つてことで!』だつて」

絹旗「超アバウトじゃないですか!!いいんですかそれで!?!」

唯「あ、あはは……(最愛ちゃんつてちよつとあずにゃんに似てる  
かも)」

絹旗「ふう、全く……あ、それとゲストなんですが、作者が執筆し  
ている『表と裏と窒素とビリビリ』と『K-ONノート』に登場す  
るオリキャラや原作キャラから、敵味方や時系列関係なしでやつて  
きます。また、他の原作キャラや許可がとれれば他の作者さんのオ  
リキャラもゲストとして呼びたいと超考えてます」

唯「いろんな人と会えるんだね、楽しみ」

絹旗「以上で簡単な説明を終わりますが、また何か必要なことがあったら超追加説明しようと思ってます」

唯「長い説明、ありがとう最愛ちゃん！」

~~~~~

唯「いくよ、HTT！」

絹旗「……何も進化が見られませんが」

唯「うー……だって、何も思いつかないんだもん……」

絹旗「仕方ない……この私が超一緒に考えてあげましょう」

唯「ほんと！？やったー」

絹旗「（超子供っぽいんですが……本当に高校生ですかね？）」

唯「うーん……HTTっていうのはいれたいよね」

絹旗「確かに……英語とかどうでしょう」

唯「いいねー あっ！『レッツ、HTT』っていうのはどう？」

絹旗「あ、いいかもしれませんね、それ。とりあえずそれでいきましょー」

唯「結局私が考えたね」

絹旗「英語という案を超提供したのは私です」

唯「なるほど……じゃあ初めての共同作業だね！」

絹旗「（……新郎新婦？）」

唯「つて、あつ！もうこんな時間じゃん！帰って憂のご飯食べなきゃ！」

絹旗「私もそろそろ超チエックしてた映画を見に行かないといけない時間です。第一回はここで開きますか」

唯「そうだね、じゃあ、バイバイ最愛ちゃん」

絹旗「ええ、さようなら。あとみなさん、今年も一年よろしく願いします」

唯「よろしく願いします」

第一回「レッツ、HTT!」(後書き)

次回、いよHTTスタート!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0846ba/>

唯と最愛のHTT

2012年1月1日23時49分発行